

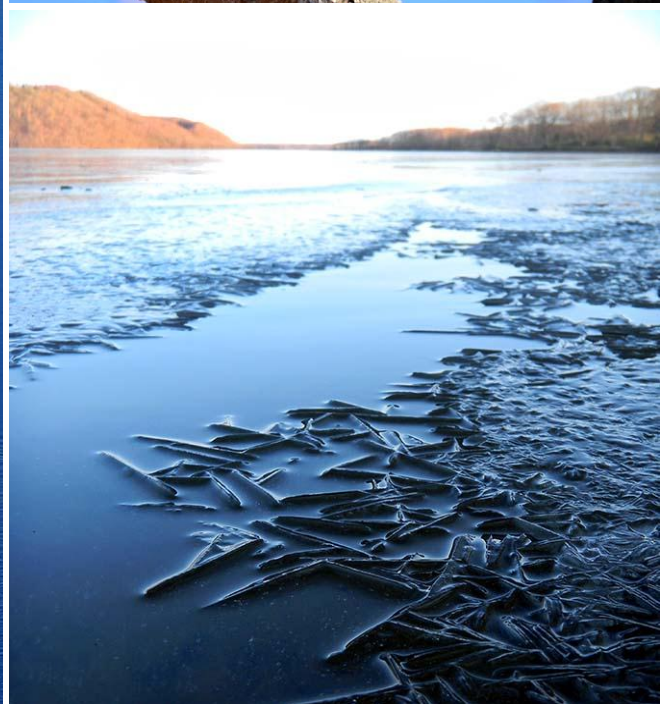
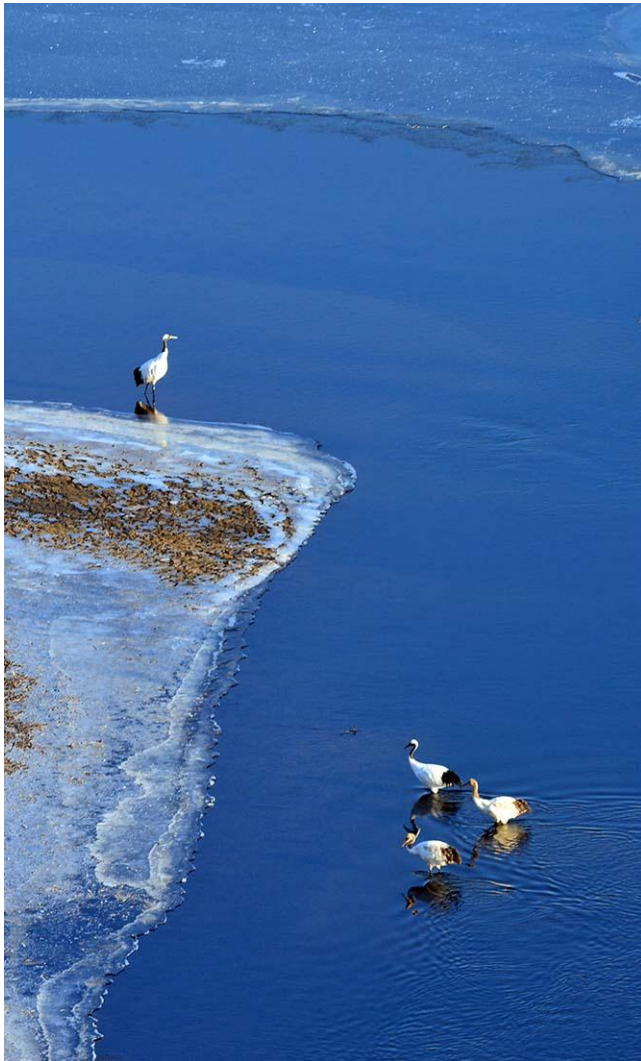
月刊 やちまなこ

2014.12.15 発行

No. 205

12 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

師走に入り、気温も氷点下 10℃ 以下の日が続き、水鳥が羽を休めていた湖も氷が張った。湖面から架線を擦ったような音が聞こえ、本格的な冬の訪れを告げているようだ。足元の氷は陽射しを受け、その中で小さな結晶がキラキラと星のように輝き、自分の影が湖底へと伸びた先には小魚の群れが通り過ぎて行った。



コッタロ川と湿原のほとりから

174 12月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“ハマシギの寄り道嬉し枯野哉” 暖冬の入り口で思いがけず出会ったこの鳥は通常、大群で海浜に飛来するもので内陸部の我家でお目にかかることは滅多にありません。年々水辺を拡張し続けてきた結果の楽しいハプニングと云えましょうね。すみやかに滑る様な歩調は目にも留まらぬ素早さでハタと立ち止まり、小さな虫を捕食しては再びツツーと歩き出し、玄関先のアスファルト路上に来たところをパチリ。その後いろいろなポーズをとってくれて非常に落ちついた心持ちで丹頂等と共にツル池で過ごしていたのですが、いつの間にかいなくなったようです。

この朗報とは裏腹に、丹頂の第2コツ&タロの19羽目の幼鳥が、ひと月前(11月13日朝)から欠けたまま現在に至り、湿原で何らかのアクシデントに見舞われたものと考えられますのも前日の12日夜吹き荒れた暴風雨のすさまじさにふと、頭をよぎった悪い予感が的中したことで、このエリアを覆っていた地鳴りの如き「悲しみのシンフォニー」に包まれていたからに他なりません。

ところで、この秋(9月20日)から居付いた番のシマリスは遅く迄エサ場に現れ11月26日朝の気温が二桁(氷点下10℃)になったところで体内時計が作動したらしく冬眠に入りました。それ迄日に何回となくバードテーブルと地中の巣穴とを往復しては、一度に83粒のヒマワリの実(皮をむいて)をほぼ袋にせせと詰め込む作業を65日間続け、多くの人達から感謝された2匹のチップマunkに心を込めた『讃歌』を贈ることにいたしましょう。えっ、それはどんな歌かって? 御想像にお任せしますが、抱腹絶倒間違いなし。なので、御来訪者のみにおきかせしようと思うのですよ、ウフフフ。

さて、この一見平和な野鳥の楽園だからこそ“喝”を入れに急襲してくる猛キンがいて、たまたま逃げ遅れた一羽を仕留めた瞬間を写しましたので御覧下さい。“ハイタカに余命捧げし一瞬のハシブト雀のみ霊凍てつき”。悲喜こもごもの一年でした。そろそろもがり笛を鳴らし乍らピッチカートで近づく冬将軍と共に、元氣はつらつ羊年をうまく迎えようではありませんか。



湿原の住人たち その165

ダイサギ

全長90cmで全身の羽毛が白いダイサギが、秋と春に少数ですが塘路周辺にも飛来しています。写真は11月下旬に塘路湖に滞在していたダイサギで、両端は通年見られる全長93cmのアオサギです。体の大きさがアオサギと同程度で、この時季に足の色が黒いので、ダイサギの中でもチュウダイサギのようです。この日は国道沿いの葦原や水辺で、そばにいたアオサギやタンチョウ家族と争うこともなく適度な距離を保ちながら、長いくちばしを水面に入れて餌をとっていました。



リース作りを楽しみました！

12月6日午後1時から「リースを作ろう」を開催しました。はじめにハンノキの実をワイヤーで連結させて輪にし、リボンとベルを飾り付けしてミニリースを作りました。次にブドウやツルウメモドキの土台に松ぼっくりをホットボンドで固定させ、クリスマスカラーに着色したカラマツや各種木の実とホオズキの実を飾り付けしていきました。リース作りの面白さのひとつは、同じ材料を使っても組み合わせと配置次第で違った印象になることです。自由な発想で作ることは難しいところもありますが、工夫を凝らした素敵なリースが出来上がりました。素材の菱の実やキタコブシの実を初めて目にした方も多く、地域の自然を知り、身近な自然に目を向けるきっかけとなったようです。

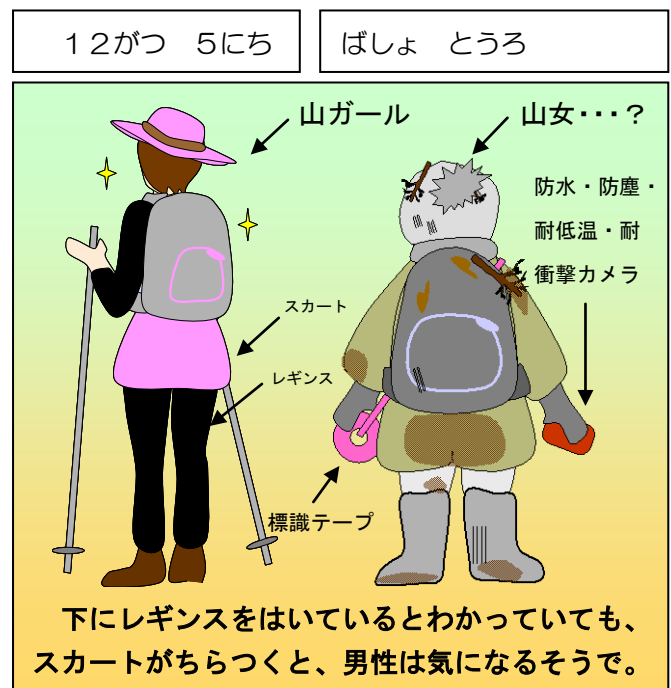


ネムネムのとうろうろう日記 Vol.52「山ガールファッションは使えるのか？」

山歩きする人とこんな話になりました。『山ガールファッション』って使えるの？山シャツにニッカボッカの（古い！）『山女』は昔からいたそうですが、最近機能性シャツにレギンスをはき、その上にミニスカートをはいた『山ガール』なるものがあると。私を含め山で作業する人にすれば、確かにあの格好は「？」です。

例えばこの季節、カラマツ林で調査をしていると、倒木の横枝が足に刺さる、冬枯れしたイラクサが服にまとわりつく、枝がはねて顔にぶつかる、重なった倒木の上によじ登り、木を伝って移動なんて普通です。汚れてもいい格好でモコモコに着込んでいるから、枝が刺さっても、けつまずいても青アザ程度ですみますが、『山ガール』のような格好では確実にケガをします。

さて調査中、近くの道路から「あ～！人がいるよ～！」と近所の保育園児の声が聞こえてきたので、「〇〇先生、こんにちは～！」と、同行のスタッフが手を振りました。しかし保育園の先生は私たちが誰なのかかわからない様子。林の中で服や髪の毛のあちこちに枯葉や枝をつけた私たちの姿は、もしかしたら『山女』どころか、『ヤマンバ』に近かったりして、と不安になりました。 辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）



各行事とも事前の申込が必要です

[日時] 1/10 (土) 10:00~12:00
[定員・参加料] 15名 100円 (材料費)
[場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

[illegible]

〔日時〕 1/18 (日) 10:00~12:00

[illegible]

【植物】(12/5)シナノキのタネ、カラコギカエデのタネ (12/10)エゾリスが食べたオニグルミの殻、ミズバショウの芽 (12/12)ツルウメモドキとハンノキの実 (12/14)ニシキギの実、凍ったハマナスの実

【鳥】(11/16)ヒシクイ、オオハクチョウ、アカエリカイツブリ (11/21)タンチョウ家族、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、オオワシ (11/22)ユリカモメ、アオサギ、ダイサギ、オオバン (11/23)オオワシ、キハダの木にヒヨドリの群れ (11/28)シマエナガ、アカゲラ、コゲラ、ミソサザイ、枯葉の下からドングリ探すミヤマカケス (12/8)オジロワシ (12/12)ヤマセミ、シメ、シマエナガとハシブトガラの混群

【その他】(11/17)霜柱 (11/28)エゾタヌキ (12/8)エゾシカの死骸、キタキツネ、ミンク、エゾタヌキの溜め糞 (12/14)標茶町今季最低気温氷点下 16.6 度を記録

12月13日、釧路湿原国立公園パークボランティアの会の皆さんに、塘路湖EMCの大清掃をしていただきました。今年も各種行事や夏季休館日対応など、EMCの活動を支援していただきました。どうもありがとうございました。



■湖に氷が張り、気泡やフロストフラワーなど、冬の自然の造形美が見られるようになりました。

また、塘路湖岸に立つと、湖からこの時期ならではの神秘的な音も聞こえます。

氷上を歩くにはまだ氷が薄く危険なので、散策時は足元に注意してください。

■路面が凍結する季節です。車で湿原を観光される方は、時間にゆとりを持ってお出かけください。

◆日出・日入時間 12/15(6:46, 15:48). 12/31(6:53, 15:57). 1/1(6:54, 15:58). 1/14(6:52, 16:11)



氷上に整列するアオサギとオオハクチョウ

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10：00～16：00（4月～10月は17：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料